

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:蛋白質研究所

項目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	<p>【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 平成24年度は、国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）による外国人留学生を18名受け入れ、博士課程教育リーディングプログラム「生体統御ネットワーク医学教育プログラム」を分担し、医学、薬学、理学等の枠を越え、医学領域と蛋白質科学領域の異分野融合を目指した研究者養成の教育を行ったほか、教育活動の実績を蛋白質研究所レポートに記載し、研究所の教育参画について意見を求めるなど、適切に実施している。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	<p>【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 平成24年度は、網膜の発生と機能の基礎研究による大阪科学賞の受賞のほか、文部科学省の「創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業」の実施機関に選定され事業を開始したことに加え、またテニュアトラック教員の最終評価を行い2名を准教授に昇任させるなど積極的に取り組んでいる。さらに、生体超分子複合体構造解析ビームラインへの高性能検出装置を設置するなど、特筆すべき成果を挙げ、大学の実績として評価できる。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	<p>【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 平成24年度は、先端核磁気共鳴装置群の産業利用支援プログラムについて中間評価でA評価（優れた事業であり、継続に値する）を受け、新たに高磁場・高感度固体NMRを中心とした装置群が平成24年度補正予算の設備整備費により処置され、先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業としてさらに展開させるなど、積極的に実施し、大学の実績として評価できる。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	<p>【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 平成24年度は、女性研究者の雇用ポジションの捻出や各種会議に関する事務処理の効率化を図るため、ペーパーレス会議の導入を行うなど、適切に実施している。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
5. 全体の項目に関する達成状況		<p>【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。</p> <p>【特記事項】 平成24年度は、大型設備活用型、研究資料提供型、および共同研究型の共同利用・共同研究拠点の活動として、共同研究員（59件）、ビームライン共同利用（59件）、NMR共同利用（10件）、国際共同研究（15件）の受け入れ、蛋白質立体構造データベース運営などの実績を上げている。また、新たに高磁場・高感度固体NMRを中心とした装置群が平成24年度補正予算の設備整備費により処置されるなど、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>